



将来、いや今かもしれない 大地震に備える

今年4月14日、熊本地方を震源としたマグニチュード6.5、最大震度7の地震が発生しました。その後4月16日には、同じく熊本地方を震源とするマグニチュード7.3、最大震度7の地震が発生しました。2回の震度7を記録し、死者110人、家屋の全半壊が3万9千棟（10月14日時点）を超えるなど、九州地方に大きな被害をもたらしました。被災地では、復旧・復興が進められていますが、その道のりは始まったばかりで容易なものではありません。

近い将来、高い確率で南海トラフ地震の発生が予想されており、いつ私たちの地域を襲うとも限りません。

今一度、皆さん自身の防災、家族の防災、地域の防災について考えてもらい、日頃から災害に備えていただきたいと思います。

三重県では、現在も含めて近い将来、南海トラフ地震の発生が心配されています

＜将来的な地震発生確率の推移＞

南海トラフ地震（地震規模：M8～M9クラス）

今後10年以内の発生確率…20%程度

今後30年以内の発生確率…70%程度

今後50年以内の発生確率…90%程度

地震調査委員会による長期評価（平成28年1月1日時点）

「南海トラフ」とは？

日本列島が位置する大陸プレートの下に、海洋プレートのフィリピン海プレートが南側から年間数cmの割合で沈み込んでいる箇所



自分の身は自分で守る

①非常持ち出し品と備蓄品の準備を！

救援活動が受けられるまでの間の必需品は各家庭で備えておく必要があります。

1人あたり最低3日分の食料品や飲料水などを準備しておきましょう。

非常持ち出し品の例

食料品など

- ☐ 飲料水(ペットボトル)
- ※1人1日3リットルが目安
- ☐ 食料(乾パン、クラッカー)
- ☐ 万能ハサミ



衣類など

- ☐ 雨具
- ☐ タオル
- ☐ 替えの下着
- ☐ ウインドブレーカー
- ☐ 三角巾



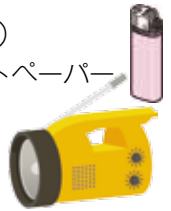
貴重品

- ☐ 現金(小銭)
- ☐ 預金通帳(コピー)
- ☐ 健康保険証(コピー)
- ☐ 携帯電話(充電器)
- ☐ 印鑑



日用品

- ☐ 手袋(軍手)
- ☐ トイレットペーパー
- ☐ ローソク
- ☐ ライター
- ☐ ロープ
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 乾電池
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ めがね
- ☐ 生理用品
- ☐ 筆記用具



安全対策

- ☐ 帽子
- ☐ 防災ずきん
- ☐ 救急セット
- ☐ 常備薬



あると便利なもの

- ☐ ウェットティッシュ…水がなくても顔や手をふくことができる
- ☐ マスク…ほこりを防ぎ感染予防に役立つ
- ☐ 大型ビニール袋…レインコートとして使える、水の運搬も可
- ☐ ガムテープ(布製)…伝言メモを貼ることができる
- ☐ 食品用ラップ…皿に敷くと汚れない、洗う手間が省ける

ほかには…

赤ちゃんや妊婦さん、高齢者などがいる家庭では、それぞれ必要なものを用意しておきましょう。

②家族みんなで話し合い！

自分と大切な家族が生き延びるために必要なことを考えてみてください。

次の内容について、ぜひ家族みんなで話し合いましょう。

身の安全や避難など

- ☐ 家の中で安全な場所は？
- ☐ 転倒しそうな家具は？
- ☐ 災害時の家族の役割分担は？
- ☐ 非常時に持ち出すものは？
- ☐ 避難場所とそこまでのルートは？

情報など

- ☐ 情報収集手段は？
- ☐ 家族との連絡手段は？
- ☐ 災害時の緊急連絡先は？
- ☐ 災害時伝言ダイヤルの番号は？



③家の中・周りの安全点検を！

熊本地震では、古い建築基準で建築された昭和56年以前の建物が多く倒壊しました。また、1回目の地震では被害がなくても、2回目の地震により、被害が出たケースもありました。

家の周りの安全点検

- ☐ ブロック塀や壁にぐらつきや亀裂がないかを確認する
- ☐ テレビのアンテナやプロパンガスのボンベなどをしっかり固定する



<地震で倒壊したブロック塀>

家の中の安全点検

- ☐ 寝る場所や出入り口付近には家具を置かない
- ☐ 家具転倒防止器具などで家具を固定する
- ☐ ガラス(窓、食器棚など)に飛散防止フィルムを貼る

ほかには…

- ☐ 耐震診断、場合によっては耐震補強の実施
- ☐ 地震保険の加入検討など

代表 かねやま防災ネットワーク
近藤保行さん



できることから防災対策を

家具の位置を変える、可能なかぎり2階で寝る、風呂の水は洗う直前まで流さないなど、簡単にできる対策が多くあります。また、家具転倒防止器具による家具の固定は、安価で効果が大きい期待できる対策と言えます。まずは、身近な対策から備えることが大切です。

実際に被災された人によると、震災直後は何より水・食料の確保に苦労したと聞きます。まずは、自分や家族が生き延びるために準備すべきことを、家族で話し合うことが重要です。

自分たちのまちは自分たちで守る

大規模災害が発生した場合、市や消防、警察などの防災関係機関の対応は、時間を要することが予想されています。

そんな時こそ、地域ぐるみの協力体制や事業所などの自主防災組織が力を発揮します。これらの組織の力が発揮できるよう、平常時から防災知識を身に付け、危険箇所を洗い出しておくなど、みんなで協力して準備することが大切です。いつどんなときに、助ける側、助けられる側になるかもしれません。普段から周囲とのコミュニケーションを大切にし、地域または事業所などの防災力を向上させましょう。



地域で行う日常の活動

- タウンウォッチングをして、地域の危険箇所を知る
- 災害図上訓練をして、災害が発生した時の対応を地図上で考える
- 災害時要援護者(体の不自由な人、高齢者、乳幼児など)の支援方法を決めておく
- 車の使い方(乗り合わせなど)を決めておく
- 避難所運営マニュアルを作成し、災害に備えた実践的な訓練を継続的に実施する

大規模災害発生時の活動

- 初期消火や救出援護活動を行う
- 災害時要援護者の安否確認・避難誘導を行う
- 避難所の運営(避難所生活のルールづくり、物資の配分、炊き出し、清掃など)を、役割分担をして積極的に行う
- 避難所では、女性に配慮し、高齢者や障がい者などへのサポートを心掛ける



亀山市消防団
団長 松尾幸夫さん



地域の防災リーダーとして

常に災害時の対応を念頭におき、「いつ、何が起ころうとも、我がまちは自分たちで守る」という強い信念を持って訓練に励んでいます。市内には女性分団を含む13分団、約400人の消防団員がいます。それぞれが地域の防災リーダーとして期待される存在になれるよう活動していくとともに、関係機関と連携して災害に強いまちづくりを推進していきます。



辺法寺自治会
会長 川戸敏弘さん



地域の“絆”をもとに

地域のことは地域住民が一番よく知っているので、災害時に自治会組織が率先して救援救護の活動を行えば、被害を最小限にできると考えます。そのために、定期的に地域での防災訓練を実施し、災害時の対応を確認するとともに、防災意識を高めています。また、このような行事を通じて地域住民の絆を深め、協力関係の構築につなげています。



協同油脂(株)亀山工場
工場長 鈴木洋一さん



全従業員での協力体制を構築

年に2回、災害に備えて訓練を実施しており、災害時には、全従業員が自衛消防隊として、通報、誘導、消火、救護活動などを行えるようにしています。地域に構える事業所として、可能な限りで災害時に対応していくことは責務だと考えます。また、先般には亀山市消防本部との合同訓練を行い、関係機関との連携強化も図っています。



大地震が起こったら～地震から身を守るために～



出典：三重県防災ガイドブック

各種情報の入手手段（一部抜粋）

●亀山市ホームページ

災害発生時には、災害対策本部から各種情報の提供

URL <http://www.city.kameyama.mie.jp/>（「亀山市」で検索）

●かめやま・安心メール

緊急メールを配信（事前登録が必要）[市が災害対策本部を設置した際、避難情報、災害情報等を携帯電話などのEメールでお知らせします]

URL <http://www.city.kameyama.mie.jp/soshiki/kiso/kikikanri/docs/2014112301908/safetymail.html>（「かめやま・安心メール」で検索）

●三重県 防災みえ.jp

災害情報、気象情報、くらしの防災情報など

URL <http://www.bosaimie.jp/>（「三重県 防災みえ.jp」で検索）

●気象庁ホームページ

URL <http://www.jma.go.jp/jma/>（「気象庁」で検索）

亀山市

防災マップ

洪水ハザードマップ

をご覧ください



この防災マップは、市内各所の避難場所や避難所を示し、災害に対する備え、災害が発生した時の行動について分かりやすくまとめています。

日頃からどのような行動をとるべきかを考えるなど、安全かつ迅速な避難行動のためにご活用ください。

問合先

企画総務部危機管理局危機管理室（☎84-5035）